

【1.体制】

情報システムの「障害・保守」「企画・購入」「規程整備」「セキュリティ対策」などを担っている。

4月時点 医事室兼務の2名体制。12月から放射線技師主任が情報システム室を兼務することになった。より診療現場に近い視点をもった戦力が新たに加わることで、当室の活動の底上げが期待される。

【2.取組内容と実績】

部署の行動計画と実績を4つの視点で報告する。

1. 業務プロセスの視点**(1) システム利用停止に関する対策整備**

サーバー障害やサイバー攻撃への対策として、以下を新規に実施した。

- ①IT-BCPの作成 (6月)
- ②システム障害対応訓練の実施 (6月 本部機能訓練、紙カルテ訓練)
- ③セキュリティに関する職員e-ラーニング研修 (4月)
- ④電子カルテサーバの定期メンテナンス作業 (9月、3月)
- ⑤インターネットパソコンの更新 (随時)

Windows10→11へ

(2) IT活用を推進する体制の構築

ITを積極的に活用する組織文化の醸成のために、以下を実施した。

- ①各部署のITリーダーが参加する情報システム運営委員会の定期開催 (2ヵ月1回)
- ②各種ITツールの活用シーンの拡大
 - ・ダイナミックテンプレート作成6件 (栄養評価、自己導尿、もの忘れ外来、骨粗鬆症外来 など)
 - ・文書作成機能の活用7件 (各種診断書、外来継続支援 など)

いずれも放射線技師が当室兼務となり、よりスピーディな対応が可能となった。

③システムレビュー対応

必要資料を済生会本部に提出し、「指摘事項なし」の結果であった (11月)。

2. 財務の視点

優先度が高いシステムを確実に計画通りに実施する。

費用面も考慮した最適な構成を関係部署・ベンダーと検討し、導入・更新のサポートを行った。

- ・電子カルテパソコンの更新 (随時)
- ・遠隔聴診器システムの導入 (9月)
- ・健診オンライン資格確認システムの導入 (10月)
- ・訪問看護オンライン資格確認・オンライン請求システム (11月) 補助制度あり
- ・健診システムの更新 (12月)
- ・電子処方箋システム・医療扶助システム導入の決裁 (3月) →導入は2025年度に
- ・医薬品在庫管理システム更新の決裁 (3月) →導入は

次年度に

- ・会計案内表示システムの導入検討
- ・電子カルテ更新に向けた検討 (熊本病院との電子カルテ共同利用の検討)

3. 顧客の視点

顧客 (患者、職員) の要望を汲み取り、障害対応や最適なITツールの提案・作成を行った。

(1) オンライン診療の取り組み

熊本病院 心臓血管外科 オンライン遠隔外来 (9月3名)
D to P with N

熊本病院からの当院電子カルテ利用、遠隔聴診器の活用

(2) 電子カルテ マイナーバージョンアップへの対応

項目数・内容が多岐に渡るため、各部門にて必要性や設定値について精査を行ってもらった。病院・ベンダーの対応に時間を要し、次年度にリリース予定とする。

4. 学習と成長の視点**(1) 情報システム室の体制強化**

12月から放射線技師主任が情報システム室を兼務することになり、体制が強化された。

2026年の電子カルテ更新に向けて、効果的にパフォーマンスが発揮できるように準備を進めていく。

(2) 済生会熊本支部システム室・担当者間の情報共有

2ヵ月1回の頻度で、済生会熊本病院 情報システム室、済生会熊本福祉センター システム担当者と、Webミーティングを行い、課題や近況などの情報共有を行っている。

今後も継続して行うことで、支部全体でレベルアップを図っていく。

【3.今後の課題】

- ・セキュリティ対策の強化 (ウィルス対策ソフトの設定完了)
- ・外来周辺のシステム導入検討 (会計案内表示システム)
- ・電子カルテ マイナーバージョンアップの対応
- ・電子処方箋システム、医療扶助システムの導入
- ・次期電子カルテ更新に向けた準備 (2026年更新)
- ・DXを推進するための組織強化 (システム室及び各部署ITリーダーの育成)